

文化・芸術

「婦人像D」

1941年 油彩、板
33・4cm×24・3cm

松本竣介 (1912〜48年)

松本竣介は、風景画とともに、多くの婦人像を残している。描かれている女性は、妻禎子をはじめ周囲の女性たちのような。

しかし、中には現実には女性なのかなどおぼつかないポートレートもある。赤いショールを巻いている。伏し目がちな大きな瞳と小さな口元。愁いながら、ほほ笑んでいるようにも見える。ソフトフォーカスをつかった写真のように、表情はあいまいである。モデルは不明。

1999年度に寄贈された作品であるが、当時故大川館長が書きのこした来歴からすると、画家と親交のあった西池袋の美容室にかざられていたという。だとすれば、重苦しい時代のなか、美容室をおとすれる女性たちに、ささやかな夢をあたえるための表現だったのかもしれない。

現在、大川美術館では、「竣介のアトリエ再見プロジェクト」実現のために、クラウドファンディングに挑戦中です。どうぞご支援のほど、よろしくお願ひします。

(田中)



名画の扉

大川美術館常設展示から